

スーパーマーケット景気動向調査

2018年1月調査結果（12月実績）
（2018年1月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断DIは現状判断、見通し判断共に大幅に改善

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から+5.3の48.6、見通し判断も前月から+3.9の45.8となり、どちらも大幅な改善となった。

経営動向調査では、売上高DIが-3.1、収益DIは-4.6と前月からマイナス幅を大幅に縮小した。青果相場が高騰したことで生鮮仕入原価DIが14.8まで上昇し、販売価格DIや客単価DIが大幅に上昇したことが売上DIの上昇につながった。天候も安定していた地域が多いことから、来客数DIは前月より上昇し-8.7までマイナス幅を縮小したことも追い風となった。

カテゴリ動向調査では、すべてのカテゴリで前月からDIが上昇し、特に相場高騰した青果DIが4.1と前月から+27.4と大きく上昇した。全体的に前年より低い気温により、冬物商材の動きがよく、鍋物需要が高まりを追い風に底堅く推移した。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、景気判断DIが現状、見通しともに大きな改善を見せたため、一転してすべての移動平均線が上昇に転じ、これまでのダウントレンドに変化がみられた。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

天候も追い風に前月より大幅な持ち直しをみせた。消費状況に対する悲観の見方は少なくなってきており、底堅さを感じている店舗も少なくない。一方で価格競争が激しいとの指摘が目立ち、来客数の維持・増加に苦心している店舗も多い。他業態も含めた競合が続くなかで、消費者にどのように来店を促すか、取り組みの重要性はさらに高まっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：48.6 (+5.3) 前月：43.3	消費者購買意欲DI 当月：48.4 (+4.0) 前月：44.4	周辺地域 競合状況DI 当月：42.1 (+2.4) 前月：39.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：49.4 (+3.0) 前月：46.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：45.8 (+3.9) 前月：41.9	消費者購買意欲DI 当月：46.6 (+3.0) 前月：43.6	周辺地域 競合状況DI 当月：40.8 (+2.3) 前月：38.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：48.1 (+2.3) 前月：45.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-3.1 (+7.2) 前月：-10.3	客単価DI 当月：6.4 (+4.8) 前月：1.6	来客数DI 当月：-8.7 (+4.9) 前月：-13.6	
収益DI 当月：-4.6 (+4.6) 前月：-9.2	販売価格DI 当月：5.0 (+4.4) 前月：0.6	生鮮品仕入原価DI 当月：14.8 (+9.1) 前月：5.7	食品仕入原価DI 当月：3.6 (+2.9) 前月：0.7

カテゴリ動向

青果DI 当月：4.1 (+27.4) 前月：-23.3	水産DI 当月：-3.7 (+6.2) 前月：-9.9	畜産DI 当月：7.8 (+1.6) 前月：6.2	
惣菜DI 当月：0.3 (+2.1) 前月：-1.8	日配DI 当月：-2.5 (+3.2) 前月：-5.7	一般食品DI 当月：-3.2 (+1.2) 前月：-4.4	非食品DI 当月：-7.6 (+1.9) 前月：-9.5

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

1月調査（12月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

マイナス圏での推移が続くもマイナス幅は縮小

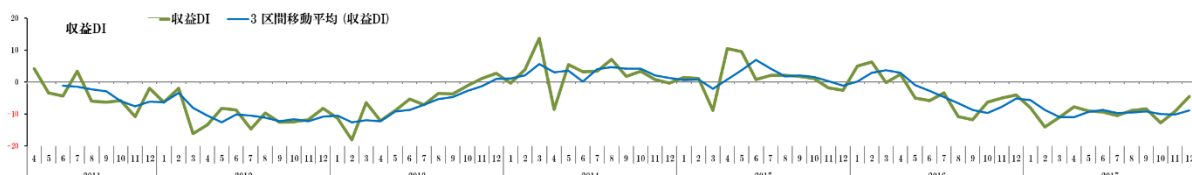
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	11.3	38.4	30.5	19.7	0.0	-10.3
売上高 (当月)	6.3	31.4	33.0	27.2	2.1	-3.1



2. 収益DI

マイナス圏での推移が続くもマイナス幅は縮小

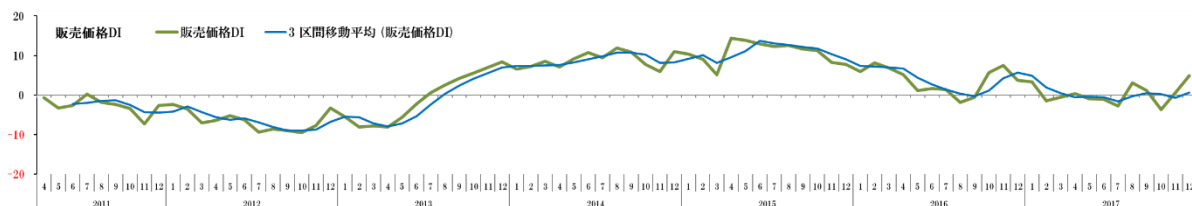
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.4	36.3	31.8	18.4	2.0	-9.2
収益 (当月)	9.0	27.0	39.2	23.3	1.6	-4.6



3. 販売価格DI

プラス幅をやや拡大し、底堅く推移

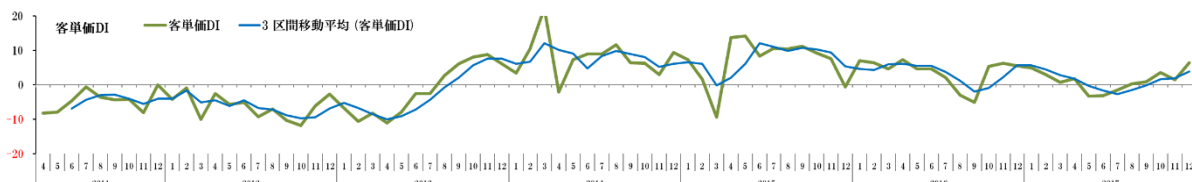
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	16.3	65.3	17.8	0.5	0.6
販売価格 (当月)	0.0	9.4	62.3	27.2	1.0	5.0



4. 客単価DI

プラス幅をやや拡大し、底堅く推移

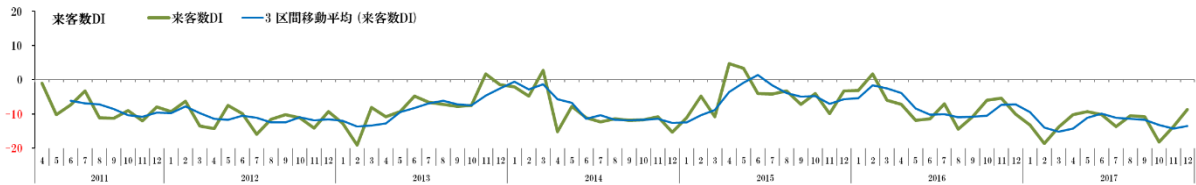
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.5	20.7	50.7	28.1	0.0	1.6
客単価 (当月)	0.0	15.8	43.2	40.5	0.5	6.4



5. 来客数 DI

マイナス圏での推移が続くもマイナス幅は縮小

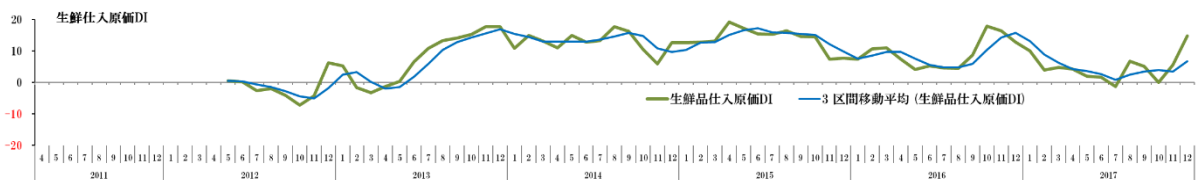
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.8	43.6	34.8	10.8	0.0	-13.6
来客数 (当月)	8.3	40.1	30.7	19.8	1.0	-8.7



6. 生鮮仕入原価 DI

大幅な上昇をみせ、二桁のプラスを記録

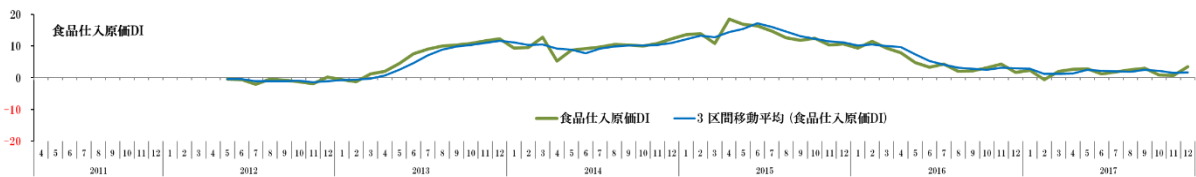
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.5	12.6	44.7	36.2	3.0	5.7
生鮮仕入原価 (当月)	1.1	5.9	34.0	51.1	8.0	14.8



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス域で横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.5	11.4	65.3	18.3	1.5	0.7
食品仕入原価 (当月)	2.1	8.4	64.2	23.7	1.6	3.6

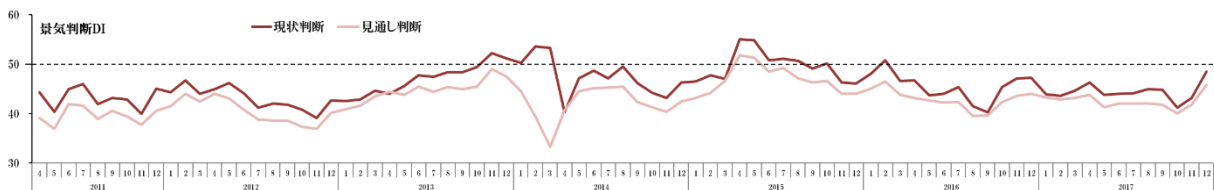


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に大幅に改善

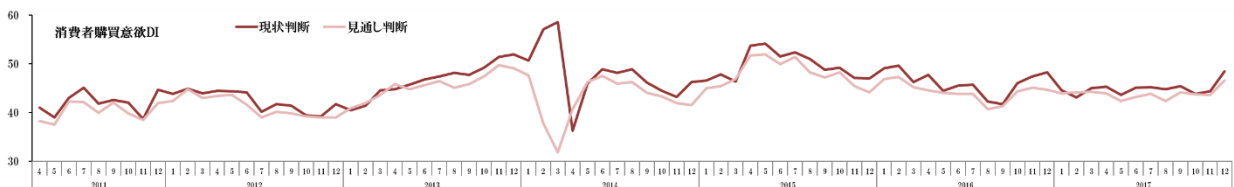
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	3.4	26.0	64.7	5.9	0.0	43.3
【現状】景気判断 (当月)	2.1	19.8	61.5	15.1	1.6	48.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	3.0	31.5	60.6	4.9	0.0	41.9
【見通し】景気判断 (当月)	2.1	24.1	62.3	11.5	0.0	45.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に大幅に改善

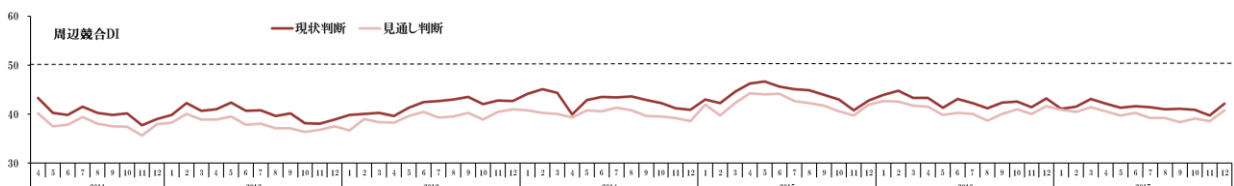
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.0	27.0	65.7	6.4	0.0	44.4
【現状】購買意欲 (当月)	0.5	18.8	67.7	12.5	0.5	48.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	28.6	67.0	3.9	0.0	43.6
【見通し】購買意欲 (当月)	0.5	19.8	72.4	7.3	0.0	46.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

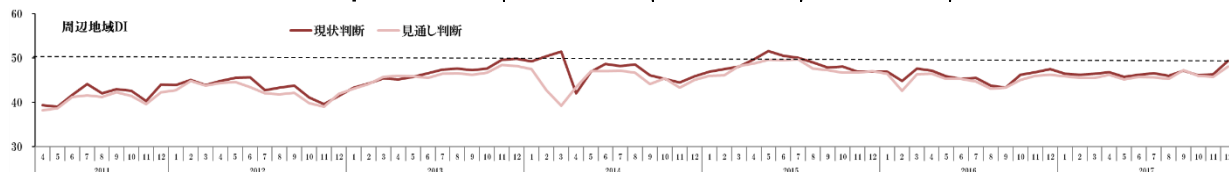
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.9	32.8	60.8	1.5	0.0	39.7
【現状】競合状況 (当月)	3.1	25.9	70.5	0.5	0.0	42.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.9	35.0	58.1	1.0	0.0	38.5
【見通し】競合状況 (当月)	5.2	26.4	68.4	0.0	0.0	40.8



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

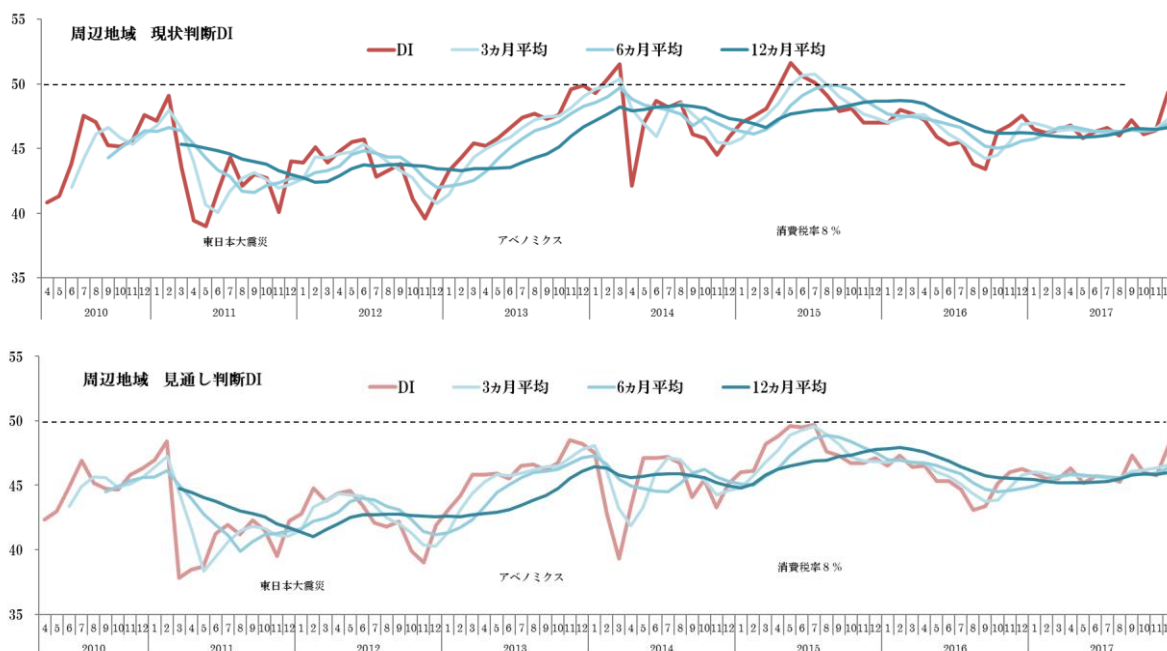
現状判断、見通し判断共に大幅な改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	15.4	82.1	2.0	0.0	46.4
【現状】地域景気 (当月)	0.5	7.8	85.5	6.2	0.0	49.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	17.9	79.6	2.0	0.0	45.8
【見通し】地域景気 (当月)	1.0	9.3	86.0	3.6	0.0	48.1



長期傾向 (2010年4月～)

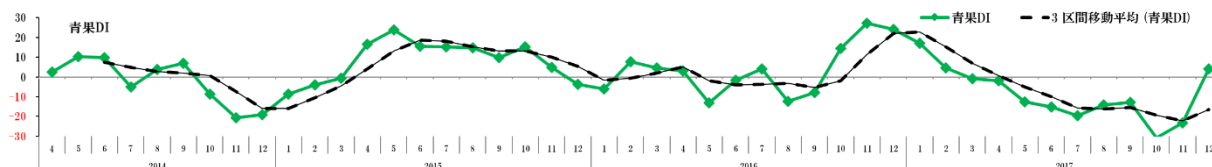
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り12ヵ月移動線付近で下げ止り、横ばい推移が継続していたが、12月に大幅な改善をみせすべての移動線がプラス転換した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：4.1（やや好調）

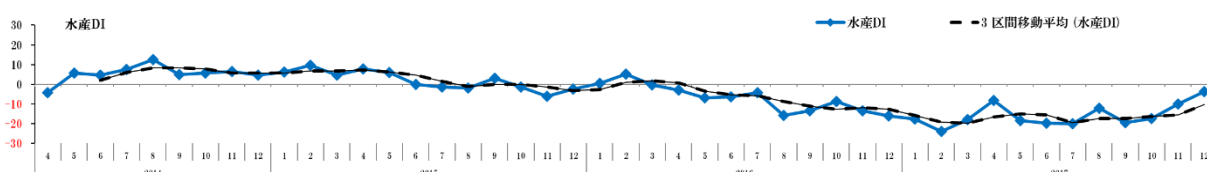
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	26.3	50.5	14.9	6.7	1.5	-23.3
青果 (当月)	6.6	22.5	27.5	34.6	8.8	4.1



葉物を中心に野菜相場が高騰したことで、一品単価が大きく上昇し好調となった。前年は暖冬により不振となった鍋物需要が気温の低下により底堅く推移したことや、容量調整により値ごろ感を訴求する取り組みなどが数量を維持することに貢献した。菌茸類が好調となったが、根菜類は前年並みとなった。高騰の影響でカット野菜は好調となっている。国産果物ではみかんは好不調がわかれ、いちごは高値で不調、輸入果物のバナナやキウイなどは好調とのコメントがみられた。

2. 水産DI：-3.7（やや不調）

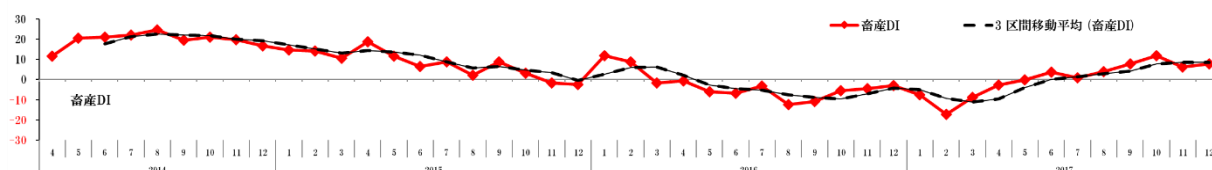
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	12.0	37.0	31.8	17.2	2.1	-9.9
水産 (当月)	6.6	33.1	31.5	26.0	2.8	-3.7



気温の低下により鍋物関連の切り身やカニも好調となった。相場の安定しているぶりは引き続き好調、数の子や塩干品、漬け魚も比較的好調とする店舗が多かった。一方、近海魚は不漁による高値と品薄の影響で不調が続いている。刺身類は好不調わかれているが、マグロを中心に相場が高騰しているなかで値ごろ感の打ち出しに苦心しているといったコメントがみられた。寿司商材は年末を中心にやや好調に推移した。

3. 畜産DI：7.8（やや好調）

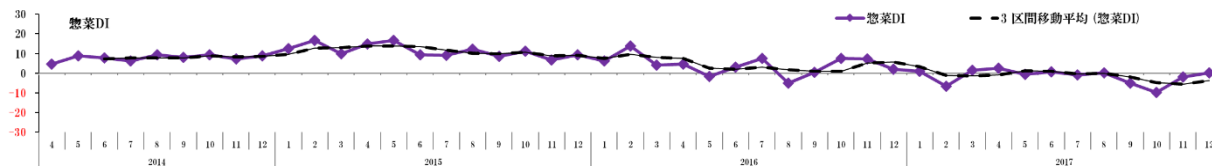
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	4.1	19.6	33.0	34.0	9.3	6.2
畜産 (当月)	2.2	17.8	32.8	41.1	6.1	7.8



気温低下により鍋物、しゃぶしゃぶ用の動きがよく、豚肉や鶏肉が好調となった。国産豚肉は高騰しておりバラやスライスの動きがよかった。牛肉は年末にかけて和牛など高単価のすき焼き用が好調であった店舗もみられたが、周辺店舗との価格競争や輸入牛の販促シフトなどの影響で、前年並みか不調となった店舗が多かった。肉加工品は、ギフトを含めて不調とするコメントが多かった。

4. 惣菜DI：0.3（やや好調）

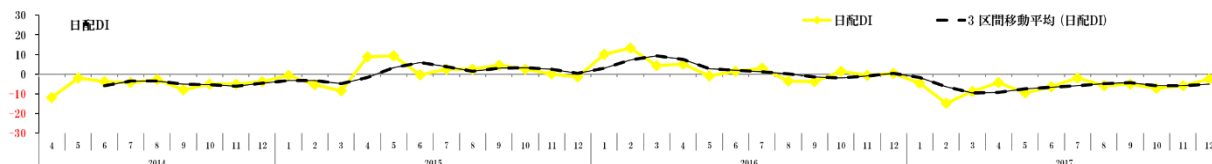
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.3	24.5	41.1	22.4	4.7	-1.8
惣菜（当月）	3.3	23.2	45.3	25.4	2.8	0.3



クリスマスは曜日めぐりが悪くオードブル等が不調となったほか、年末にかけても伸び悩んだ店舗が多かった。米飯類は総じて好調に推移したが、寿司や揚げ物については好不調の判断が二分されており、全体としての傾向がみられなかった。新メニューや出来立ての提供などの取り組み強化が成果をあげているとのコメントが多い一方で、人手不足により生産に支障があったとの指摘もみられた。

5. 日配DI：-2.5（やや不調）

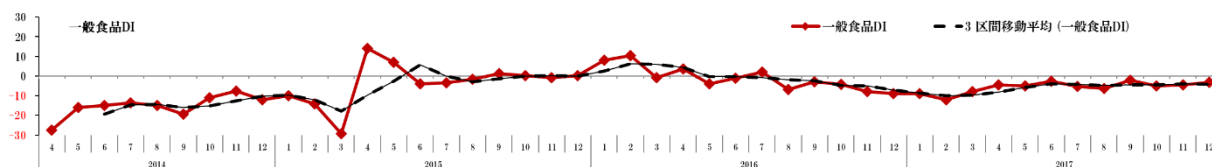
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.2	30.1	45.1	17.6	1.0	-5.7
日配（当月）	3.9	28.2	43.6	22.7	1.7	-2.5



前年との気温差により、冬物商材やおでん・鍋用商材などは動きがよかった一方で、乳製品やデザート、飲料などの洋日配は不調となった。機能性ヨーグルトは前年対比で不調となった店舗が多い。前年ヒットした甘酒も反動減がみられた一方で、メディア報道により豆腐や納豆などの動きはよかった。おせち関連は前年並みからやや不調とするコメントが多かった。他業態との価格競争が厳しいとの指摘もみられた。

6. 一般食品：-3.2（やや不調）

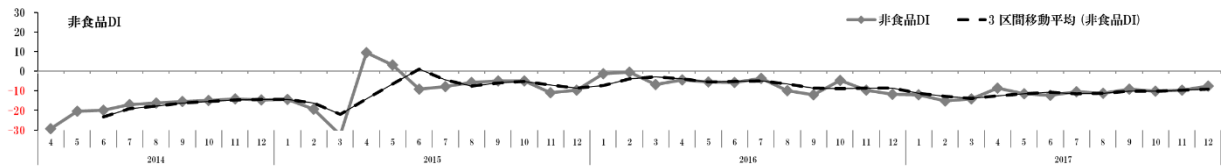
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.7	30.1	42.5	19.7	2.1	-4.4
一般食品（当月）	5.0	25.4	47.5	21.5	0.6	-3.2



前年との気温差により、スープ類やカレー・シチュー、鍋つゆ、麺類などのホットメニューの動きがよかった。米類は新米の価格がやや上昇しているなか好調となった店舗が多い。一方で飲料は不調、酒類は好不調がわかれている。メディア報道のあった缶詰類は引き続き好調となった。競争が厳しくなっている影響でギフト関連は不調、年末商戦も伸び悩んだ店舗が多かった。

7. 非食品DI：-7.6（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.9	28.0	45.7	11.3	2.2	-9.5
非食品（当月）	7.9	33.9	42.4	12.4	3.4	-7.6



気温の低下によりカイロや入浴剤、冬用化粧品など一部の動きがよくなっているが、主力の消耗品の動きは鈍く、特に紙類での落ち込みが大きい。ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2018年1月調査（12月実績）キーワードTOP3

1. 青果相場高
2. 気温の低下（前年より気温が低い）
3. 競合激化（来客数の減少）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

12月実績速報版 193社
 11月実績確報版 204社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp